

通し番号	記入不要
------	------

分類番号	28-54-21-13
------	-------------

トウモロコシ二期作の作業分散方法	
<p>[要約] 試験区では早生品種、慣行区では極早生品種及び極晩生品種を組合せて栽培した。試験区と慣行区は、いずれも1作目及び2作目ともに収穫期には黄熟期となり、年間の乾物収量は同程度である。試験区と慣行区の栽培方法を組合せることにより、1作目の収穫及び2作目の播種の作業期間を1週間程度拡大することができ、トウモロコシ二期作における最も繁忙な作業である1作目の収穫と2作目の播種の作業分散方法として利用できる。</p>	
畜産技術センター・企画指導部・企画研究課	連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

温暖地におけるトウモロコシ二期作の安定多収栽培のため、繁忙な1作目の収穫と2作目の播種の作業分散のための、1作目及び2作目品種の組合せについて検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1 慣行区では1作目はKD510 (RM100)、2作目は30D44 (RM135)、試験区では1作目と2作目ともにP1690 (RM115)を組合せて、播種日、収穫日、乾物収量、乾物率、収穫ステージ等を調査した。
- 2 1作目の収穫では、試験区は慣行区より7日遅く、2作目の播種では、試験区は慣行区より12日遅い。試験区及び慣行区の1作目の収穫から2作目の播種までの期間は8日間及び3日間である。試験区と慣行区の栽培方法を組合せでは、1作目の収穫から2作目の播種までの期間は15日間である(表1)。
- 3 試験区と慣行区は、いずれも1作目及び2作目ともに全て黄熟期で収穫し、乾物率は25.2~31.3%である。試験区及び慣行区の年間の乾物収量は、3,184kg/10a及び3,169kg/10aと同程度である。(表2)
- 4 試験区と慣行区は、いずれも1作目及び2作目ともに収穫期には黄熟期となり、年間の乾物収量が同程度であったことから、試験区と慣行区の栽培方法を組合せることにより、1作目の収穫及び2作目の播種の作業期間を1週間程度拡大することができ、トウモロコシ二期作における最も繁忙な作業である1作目の収穫と2作目の播種の作業分散方法として利用できる。

[U1]

[成果の活用面・留意点]

- 1 2作目として早生品種を利用する場合は、7月下旬及び8月上旬に播種した場合にはさび病が発生しやすいため播種期について注意する必要がある。
- 2 試験区は45a、慣行区は67aの生産圃場で実施した。

[具体的データ]

表1 生産圃場における播種日および収穫日

栽培方法	1作目		2作目		1作目収穫～ 2作目播種
	播種日	収穫日	播種日	収穫日	
試験区	3/31	8/1	8/9	11/21	8日
慣行区	3/30	7/25	7/28	11/21	3日
差	1	7	12	0	5日

表2 生産圃場における熟度および乾物収量

栽培方法	1作目			2作目			年間乾物収量 (kg/10a)
	ミルクライン	乾物率 (%)	乾物収量 (kg/10a)	ミルクライン	乾物率 (%)	乾物収量 (kg/10a)	
試験区	4	27.3	2,244	1	25.2	940	3,184
慣行区	3	28.9	1,880	4	31.3	1,289	3,169
差	1	-1.6	364	-3	-6.2	-349	15

[資料名] 平成28年度試験研究成績書

[研究課題名] 不耕起対応高速播種機を活用したトウモロコシ二期作の安定多収栽培  
技術の開発

[研究内容名] 組み合わせ品種の検討

[研究期間] 平成27～29年度

[研究者担当名] 折原健太郎、橋村慎二、山本和明、坂上信忠

(共同研究：普及指導課)